令和６年度　自己点検・自己評価報告書

（専門学校等評価基準 Ver.3.0 準拠版）

学校法人ホンダ学園
ホンダ テクニカル カレッジ 関西

令和７年５月１日作成

目　　次

基準１　教育理念・目的・育成人材像等 4

1-1　理念・目的・育成人材像は定められているか 5
1-2　学校の特色は何か 6
1-3　学校の将来構想を抱いているか 7

基準２　学校運営 8

2-4　運営方針は定められているか 9
2-5　事業計画は定められているか 10
2-6　運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 11
2-7　人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 12
2-8　意思決定システムは確立されているか 14
2-9　情報システム化等による業務の効率化が図られているか 15

基準３　教育活動 16

3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 17
3-11　修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 18
3-12　カリキュラムは体系的に編成されているか 19
3-13　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか 20
3-14　キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか 21
3-15　授業評価の実施･評価体制はあるか 22
3-16　育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 23
3-17　成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 26
3-18　資格取得の指導体制はあるか 27

基準４　教育成果 28

4-19　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 29
4-20　資格取得率の向上が図られているか 30
4-21　退学率の低減が図られているか 31
4-22　卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか 32

基準５　学生支援 33

5-23　就職に関する体制は整備されているか 34
5-24　学生相談に関する体制は整備されているか 35
5-25　学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 36
5-26　学生の健康管理を担う組織体制はあるか 37
5-27　課外活動に対する支援体制は整備されているか 38
5-28　学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 39
5-29　保護者と適切に連携しているか 40
5-30　卒業生への支援体制はあるか 41

基準６　教育環境 42

6-31　施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 43
6-32　学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 44
6-33　防災に対する体制は整備されているか 45

基準７　学生の募集と受け入れ..... 47

7-34　学生募集活動は、適正に行われているか 48
7-35　学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか .. 49
7-36　入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか 50
7-37　学納金は妥当なものとなっているか 51

基準８　財務 33

8-38　中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 53
8-39　予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 54
8-40　財務について会計監査が適正に行われているか 55
8-41　財務情報公開の体制整備はできているか 56

基準９　法令等の遵守..... 57

9-42　法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 58
9-43　個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 59
9-44　自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 60
9-45　自己点検・自己評価結果を公開しているか 61

基準１０　社会貢献..... 62

10-46　学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか ... 63
10-47　学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 65

基準１　教育理念・目的・育成人材像等

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
【建学の志】 ホンダ学園は世界に歓迎される人間の育成を使命とする 【学園の目的】 チャレンジ精神に溢れ、人に愛され信頼される技術者を育成する 【育成方針】 社会に歓迎される為の… ・マナーとマインドを磨く ・実践第一の技術力を学びとる ・社会貢献の心と行動力を育む Honda らしさに溢れ、環境変化に強い学校経営の実現	【令和６年度方針】 本学園では学校経営の根本である「建学の精神」の原点に立ち戻り、「世界に歓迎される人材の育成」に中期目標を定めて取組んでいる。 自動車業界はサービス人材不足から自動車整備専門学校を卒業し国家資格を取得した学生の就職に大きな期待を寄せており、また教育現場も高度化する自動車技術に対応できる人材を輩出するために進化していく必要がある。 一方で、18 歳人口の減少・大学進学率の上昇・若年層の自動車離れなどにより、自動車整備士を志望する学生が年々減少しており、学生数の減少は学校法人の経営環境にも更なる厳しさとして現れており課題は大きい。 このため下記に示す新たな「中期計画（３ヶ年)」を定め、その実現に取り組む。 【中期方針】 Honda のフィロソフィーと企業活動(商品・技術・サービス)をベースとした実践的な技術者教育で、時代にマッチした環境/安全の技術進化に追従し、グローバルで活躍できる整備士・技術者人材を育成する 【中期重点課題】 1.時代にあった教育カリキュラムの確立 2.企業の期待に応える人材の輩出 3.意欲に溢れた学生の確保 4.学園の価値を創出する教職員の育成 5.職場環境改革（ICT/インフラ/働き方） 6.永続的かつ安定的な学校経営基盤の構築 また、重要性に鑑み、以下の 3 項目を重点管理指標として取組む ・資格取得率：国家試験合格率 全級 100% ・就職率:100%（内 Honda 関連企業割合 80%以上） ・入学者数(関東＋関西校)：25 年入学 410 名/26 年入学 440 名/27 年入学 475 名

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	中嶋　歩

1-1　理念・目的・育成人材像は定められているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
1-1-1　学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	理念・目的・育成人材像を定め、明示されている	「建学の志」「学園の目的」「育成方針」として、明確に定められている	課題なし	学校法人ホンダ学園 事業報告書
1-1-2　理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	環境変化に追従した中期方針を作成し、方針に紐づく主要施策の進捗状況と課題等を定期的にチェックする	令和 6 年からの 3 年間を中期と位置づけた中期方針を定め、その推進計画に沿った活動を実施している	課題なし	カレッジガイド シラバス
1-1-3　理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	社会情勢などの環境変化における事柄を考慮し、必要に応じ都度見直しを図る	毎年度末に、計画が適切であったかをチェックし、実績を踏まえて改善や見直しを行っている	学校主体の社会貢献活動については、実施されているものの自発的な社会貢献活動に結びつくための教育を目指す	カレッジガイド シラバス
1-1-4　理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	学校運営の基本的な考え方を開示し、教職員及び外部にも周知する	理念・目的・育成人材像等を、教職員及び外部にも周知されている（ホームページ等に記載）	課題なし	カレッジガイド シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中期経営計画（３年ローリング）を核として、年初に教職員に対して共有化を行い、計画的に実行している	特になし

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	中嶋　歩

1-2　学校の特色は何か

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
1-2-5　学校の特色として挙げられるものがあるか	【建学の志】を原点にHondaの持つ資源（Honda Carsの最新の取組み・Honda最新技術・開発手法）を活用して知識と技術を提供できる教育環境を構築する	特色＝差別化と考えている。 他のメーカー校では出来ない特色（二輪車教育等）＝Hondaでしか出来ない教育を行う 特に、開発過程の取組みでは、モノ造りのプロセスを実践的に学ぶ教育を実施している	二輪車教育の優位性が薄れてきており、メーカー校ならではの最新技術教育を発展させて行く 教育に必要な設備・教材等は、本田技研工業の協力を得て確保する	カレッジガイド ホームページ

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本田技研工業、本田技術研究所やHonda Carsにて Hondaの考え方や技術力を身に付けた教職員で教育活動を推進している また、各校に於ける各学科の特色を高校訪問など通じて広く発信し、学生への認知の向上を図っている	人としての基礎・基本（マナーなど）を徹底的に体得させ、企業から期待される人材を育成する事を目指している

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	中嶋　歩

1-3　学校の将来構想を抱いているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
1-3-6　学校の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	学校の将来構想は、環境認識を踏まえ策定した中期方針に基づき、立案・計画・実行する	令和 6 年度からの 3 年間を中期と位置付けた中期方針に基づき、各年度の事業計画に基づき実施している	環境変化への対応等が必要	学校法人ホンダ学園 事業報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
特になし	特になし

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	中嶋　歩

基準２　学校運営

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
若者のクルマ離れ、価値観の多様化、18 歳人口の減少、大学の受け入れ層の拡大などの影響により、自動車の整備士や開発技術者を志す学生が年々減少している。 一方、自動車業界は「100 年に一度の大変革期にある」と言われ、環境と安全を見据えた「電動化」「知能化」技術は日々進化し、その技術を安心して享受するための整備士や技術者の人材需要は更に増している。 その様な情勢の中、本校においては学生数が減少し財務状況が悪化しており、人材需要に応え学校運営を持続させるための改革が求められている。 本校ではメーカー校として、Honda が創るモビリティ社会で活躍する人材の育成を目指し、学園の中長期ビジョンを再設定し以下とした。 【中長期ビジョン】 「移動」と「暮らし」の進化がもたらす豊かな社会の実現に向け Honda の自動車大学校ならではの教育で人に喜ばれ、社会に貢献する人材を輩出する 中長期ビジョンの実現に向け、３か年の中期方針のもとメーカー校として魅力ある教育環境を整備し、学生個々の成長のためのニーズと就職先企業のニーズに合致する質の高い教育を提供することで学生数を確保し、全教職員の改革意識の向上により競争力の高い学校運営の実現を目指している。 更に、整備士人材の確保において、留学生への教育を拡大することが必須となっており、受け入れ体制の強化として、日本語教育を軸とした留学生専用カリキュラムの構築、生活のサポート、運転免許取得促進に力を入れている。	【中期計画の方針】 Honda のフィロソフィーと企業活動(商品・技術・サービス)をベースとした実践的な技術者教育で、時代にマッチした環境/安全の技術進化に追従し、グローバルで活躍できる整備士・技術者人材を育成する 【中期重点課題】 ① 時代にあった教育カリキュラムの確立 管理目標：資格取得率 100%（自動車整備士資格） 実績：一級 100%　二級 99.6%　三級:96.4% ② 企業の期待に応える人材の輩出 管理目標：就職率 100% 実績：　↑　100% ③ 意欲に溢れた学生の確保 管理目標：次年度入学者数 210 名以上 実績：　↑　221 名 ④ 学園の価値を創出する教職員の育成 管理目標：従業員活性度 3.50pt 以上 実績：　↑　3.80pt ⑤ 職場環境改革（ICT/インフラ/働き方） 管理目標：従業員活性度(働きやすい環境がある）3.50pt 以上 実績：　↑　3.63pt ⑥ 永続的かつ安定的な学校経営基盤の構築 **管理目標：計画進度 実行・改定** **実績：　↑　理事会報告完了**

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	海沼　弘樹

2-4　運営方針は定められているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-4-1　学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか	建学の志、学園の目的に基づき、年度の運営方針を明確に定める	年度初めに方針と目標を明確に定めている	課題なし	方針／施策系統図
2-4-2　学校運営方針は教職員に明示され、伝わっているか	年度初めに説明を行う	新年及び年度初めに方針と目標を明確に説明している	課題なし	方針／施策系統
2-4-3　学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか	学校経営に必要な各種諸規定を整備する	各種諸規定は整備されている。学校経営は監督官庁の下に営んでおり、各種規定に必要な最新情報を反映している	課題なし	組織役割・事務分掌、学則、細則

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の目的、目標に基づいた学校運営方針は明確に定められている 運用についてもスムーズに展開できている 運用においては四半期毎に進捗を管理し、振り返りと修正を行っている。	特になし

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	海沼　弘樹

2-5　事業計画は定められているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-5-4　学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか	学校経営を円滑に営むために、事業計画を定める	年度における事業計画は年度初めに定め、必要な部門に説明している	課題なし	方針／施策系統図
2-5-5　学校は事業計画に沿って運営されているか	事業計画作成時に実行計画及び予算計画を示し運営する	事業計画、実行計画及びそれに基づく予算計画を年度初めに定め、必要な部門に説明し進捗を管理している	課題なし	方針／施策系統図

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中期計画を踏まえ年度毎に予算を含む実行計画を定め、部室科長会にて共有し、全教職員にブレークダウンしている。	特になし

更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	海沼　弘樹

2-6　運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-6-6　運営組織図はあるか	学園全体の運営組織図を活用し、業務を組織的にスムーズに遂行する	学園組織運営図は、法人本部にて月初めに改廃をし、最新版にしている。教務での役割を示した運営組織図を期初に改定し、運営している	課題なし	ホンダ学園組織図 役割担当表
2-6-7　運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか	運営組織や意思決定機能は、よりシンプルなものとし、学校の目的、目標を達成するために迅速かつ的確な行動が取れるものとする	組織や委員会機能、会議体など、運営の効率化に向けて適宜見直しを行っている	課題なし	ホンダ学園組織図 役割担当表
2-6-8　組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか	教職員の役責を職務分掌で、明確に示し運用する	職務分掌と責任は明確になっている	課題なし	組織役割・事務分掌

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
運営組織図、組織役割・事務分掌、役割担当表を明示することにより、各自の役割は明確になっている。	特になし

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	海沼　弘樹

2-7　人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-7-9　学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	監督官庁から示された基準に基づき定員学生数に対応できる教員の人数を目安に、必要な人材を確保する	実学生数に対する教員は充分に確保している	課題なし	国交省一種養成基準書
2-7-10　人事考課制度は整備されているか	本田技研工業㈱の人事に関する諸規則により、推進する また、嘱託雇用の教職員については学校法人ホンダ学園の人事に関する諸規則により推進する	人事考課は、本田技研工業㈱労働協約適用法人として進めている また、嘱託雇用の教職員については学校法人ホンダ学園として進めている	課題なし	就業規則 労働協約 給与規則
2-7-11　昇進・昇格制度は整備されているか	本田技研工業㈱の人事に関する諸規則により、推進する また、嘱託雇用の教職員については学校法人ホンダ学園の人事に関する諸規則により推進する	昇進・昇格は、本田技研工業㈱労働協約適用法人として進めている また、嘱託雇用の教職員については学校法人ホンダ学園として進めている	課題なし	就業規則 労働協約 給与規則
2-7-12　賃金制度は整備されているか	本田技研工業㈱の人事に関する諸規則により、推進する また、嘱託雇用の教職員については学校法人ホンダ学園の人事に関する諸規則により推進する	賃金制度は、本田技研工業㈱労働契約適用法人として進めている また、嘱託雇用の教職員については学校法人ホンダ学園として進めている	課題なし	就業規則 労働協約 給与規則

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-7-13　採用制度は整備されているか	本田技研工業㈱の人事に関する諸規則により、推進する また、嘱託雇用の教職員については学校法人ホンダ学園の人事に関する諸規則により推進する	教職員の採用は、本田技研工業㈱労働協約適用法人として進めている また、嘱託雇用の教職員については学校法人ホンダ学園として進めている	課題なし	特になし
2-7-14　教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	教職員の状況を常に把握しておく	常務理事会で情報共有している	課題なし	ホンダ学園組織図

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本田技研工業㈱労働協約適用法人として、運営している また、嘱託雇用の教職員については学校法人 ホンダ学園として運営している	特になし

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	海沼　弘樹

2-8　意思決定システムは確立されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-8-15　意思決定のシステムは確立されているか	最終決定機関の理事会・評議員会と運営意思決定機関である常務理事会・経営検討会を運営する 各校では、部室科長会、教育会議、リーダー会議で意思決定する	年３回の理事会・評議員会と月１回の常務理事会及び月数回の経営検討会を開催している 各校では週１回の部室科長会、隔週１回のリーダー会議、月１回の教職員会議等の必要に応じた意思決定会議が運営されている	課題なし	ホンダ学園　運営規程
2-8-16　意思決定のプロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか	最終決定機関の理事会・評議員会と運営意思決定機関である常務理事会・経営検討会を制度化する	年３回の理事会・評議員会と月１回の常務理事会及び月数回の経営検討会を開催している	課題なし	ホンダ学園　運営規程
2-8-17　意思決定の階層・権限等は明確か	理事長を最終決定者として理事会・評議員会を運営し、常務理事を運営意志決定機関の決定者として常務理事会・経営検討会を運営する	理事長、常務理事の権限を寄附行為に明示して運用している	課題なし	ホンダ学園　寄附行為 ホンダ学園　運営規程

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
必要な会議を定期的に開催しており、意思決定システムは効果的に運営されている	特になし

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	海沼　弘樹

2-9　情報システム化等による業務の効率化が図られているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-9-18　業務効率化を図る情報システム化がなされているか	学園独自システム（学事と財務）とHondaグループのシステムを併用し運用する	学事システム、財務システム、Notes、Outlook、Teams、出張外出、勤怠管理システムを活用している	学事システム、財務システムについて、将来を見据えた更なる効率化のための更新を行う	特になし

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
業務の効率や質改善を促進する学事システム、財務システムの運用を行うなかで、財務システムの汎用化、学生情報の共有や学生・保護者への情報発信機能を含む学事システムの改善を推進しており、外部業者と共にユーザー要件の整理を行い仕様の検討を継続している。また教材の共有化、オンライン授業、電子黒板の運用のために、ＩＣＴ環境の強化／保守を継続して推進し、全教室配信システムの運用を開始した。	特になし

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	海沼　弘樹

基準３　教育活動

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
「社会ニーズにマッチした高いレベルの専門教育と人間性の育成」 という教育理念の基に教育活動を展開している。 技術・知識は勿論のこと企業が求める人材を育成するため、基本的なマナー及び接客マナーを身につけた人材の育成に努めている。 近年の自動車技術の高度化に伴い技術レベルは向上しているが、整備士を目指す若者（自動車整備専門学校に入学する学生）の基礎学力低下は顕著であり、教えるべき内容と学生の能力との格差が年々広がりつつある。 この格差を縮めるには教員のスキルアップ （分りやすい授業展開能力・教育力向上） が必要不可欠となっており、職員研修及び授業研究などにより教育レベルの向上に努めている。 また、ニーズの多様化により、様々な学生 （自動車に興味を示さない学生等） が入学してきており、いかに興味をもたせるか、自動車好きにするかが、大切である。 　また日本で自動車技術を学ぼうとする多くの留学生を受けいれる自動車整備留学生科では新型コロナの影響を受け入国者が激減し影響を受けたが日本語学校に通う学生も戻ってきている。当校の入学者も回復傾向にあるが、多国籍化が目立ってきており対応する教員の苦労も絶えない。合わせて日本語力の低下も否めず授業に影響を及ぼしている。 自動車業界は「100 年に 1 度の大変革時代」と言われ年月もすすんでおり、特定整備事業は外せない状況である。その中で求められる整備士のスキルも変化しつつあり、今までの教育に加え電動化技術、制御技術への先進技術やそれに伴う特定整備への対応教育などが必要不可欠となってきている。また、それに伴うカリキュラムの進化は必須であり、国家試験で求めるものと実践で求められるものの両方の教育カリキュラムの運営が必要である。 ２０２５年度からの新整備士資格への対応も必要である。 一方、人間性豊かでモノつくりを行うモビリティ領域で幅広く活躍できる人材を育成することを基本に、四年制課程として稼働している一級自動車研究開発学科（開発コース）は、3 回目の卒業生を輩出することが出来た。今後は更にモビリティ領域で活躍する一級自動車整備士・開発エンジニアという社会に求められる人材育成教育に努めていく。 以上の状況を踏まえて、日々の教育活動を展開している。	〔中期方針〕 　Honda のフィロソフィーと企業活動(商品・技術・サービス)をベースとした実践的な技術者教育で、時代にマッチした環境/安全の技術進化に追従し、グローバルで活躍できる整備士・技術者人材を育成する 教育活動領域において。以下の重点管理指標をもち、教育活動を行う。 【重点管理指標】 《時代にあった教育カリキュラムの確立》 ■資格取得率：国家試験合格率 全級 100% 　　－１）実践第一の技術力を養う教育の盤石化 　　…定期試験合格率 90%以上 　　－２）社会人マナー・マインドを身につける教育の実践 　　…卒業生 CS(マナー項目)3.8pt 以上 《企業の期待に応える人材の輩出》 ■就職率　　：100% 　－１）退学者の抑制 　　…退学率　５%以内

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	神通　邦彦

3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-10-1　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	業界の人材ニーズ及び要求レベルの高まりに対し、企業と連携し教育内容の見直しを行う。	すべての学科においてインターンシップを実施し、学生の意識付けを行っている。また、教職員が企業訪問を行い、情報収集を実施している。	学生の基礎学力低下が顕著であり、教えるべき技術と教えられることとの乖離が広がりつつある。 企業から求められる学生像をもとに教育内容の見直しを図る。	整備士試験合格率 ＣＳ調査 インターンシップ評価表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各学科の教育目標、育成人材像については各科育成像を明示し、その目標に向かって日々人材育成に努めている。 二級整備士試験の結果は一般の合格率に対して高い結果となっており、企業ニーズに応えられているが、常に１００％の合格を目指していく。 一級整備士については、試験状況の変化もある中で更なる合格率の向上が求められているため改善が必要である。 企業ニーズの把握については、すべての科においてインターンシップを実施しており、教職員の企業訪問により情報を収集するとともに、授業に反映させている。	国家試験対策については、関西校のみでなく、関東校の対策状況も交えて対策運営し、100%の合格を目指している。 卒業生においては、就職先へＣＳ調査を実施し、各企業の求める人材と卒業生状況の乖離を把握し各科の育成カリキュラムへの反映を図るよう努力している。 各学年で実施されるインターンシップ評価には学校へのご意見等も記入できるようになっており、その結果を教育に活かすようにしている。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	神通　邦彦

3-11　修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-11-2　各学科の教育目標、育成人材像を達成する知識、技術、人間性等は、業界が求めるレベルに適合しているか、また、レベルに到達することが可能な修業年限となっているか	標準教育時間以上の時間数を確保し、知識、技術についてホンダの最新技術を含め業界が求めるレベル以上の教育を提供する。 合わせて、各科ごとの育成像を掲げ、教育目標、求められるスキル等を明確にして教育を行っている。	整備士養成課程の学科においては、監督官庁から標準教育時間数が明示されており、その基準に沿った教育期間となっている。 合わせて一般科目の実施により、業界が求めるレベルを更にカバー出来る体制としている。 また、レベルの判定として、試験合格点は60点以上とし、基準に満たない場合は再試験等を実施している。	学生の基礎学力低下が顕著のため、個々の能力を見極めた指導方法の開発に努める。	進級卒業認定資料 指導記録 指導要領

点検中項目　総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自動車技術の進化速度は速く、学生能力の低下からくる学校教育と業界の求める整備士技術との差が大きくなってきているが、常にカリキュラムを見直し、内容を検討している。また特定整備への対応を図るカリキュラム内容を実施するなど改善を進めている。 自動車研究開発コースにおいてはモノづくりに対する基本の取組み姿勢を基に“考動力”のある人材の育成ができるカリキュラムの実施にて業界が求めるレベル以上になるよう推進を図っている。 合わせて今期は電動化領域の教育を進めていく中で今後の業界ニーズに必要な分野（電子制御系・電動系技術など）もリサーチしながら教育のレベルを向上させていく必要がある。 企業の求める人材ニーズレベルは年々高くなっているが、企業に入社後、伸びる人材とするため、社会人基礎力をベースに必要となる知識・技術は身に付くような授業を心がけている。	本校の教育では技術力の教育だけでなく、人に愛され信頼させる人材の育成に重きを置いている。 人間性の育成は、専門学校入学前の教育環境の違いにより既に格差が生じている。様々なフォローを行い、専門学校の教育期間内にて業界が求めるレベルに到達出来るように指導・教育を実施しているものの到達しにくい学生も増えつつある。 昨年度より、留学生が自動車整備科や一級自動車研究開発学科にも多く入学するようになり、日本語理解力が伸び悩み成績面低下につながる傾向がある。同じく留学生専科である自動車整備留学生科においても日本語力向上はキーポイントであり、学校全体として留学生教育の在り方を再考していく必要も出てきている。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	神通　邦彦

3-12　カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-12-3　学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	国土交通省が定めた科目構成と標準教育時間数に沿った内容とする。 合わせて年次育成像を元に編成している。	整備技術習得、資格取得には十分な内容であり毎年見直しを行っている。	課題なし	指導要領 各科育成像
3-12-4　カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	現場で求められる内容を調査し、カリキュラムに反映する。	教育課程編成委員会の開催や卒業生の就職先を訪問して、企業の責任者および卒業生から情報を収集し、カリキュラム内容に反映している。	課題なし	ＣＳ調査
3-12-5　カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	該当年度の指導カリキュラムについては試験問題審査会等の体制を通じその内容の確認を実施し、目標等に相違がないかを確認する。	カリキュラムを編成･検討する体制は審査会・リーダー会議を基本に確認・検討を実施し編成に繋げている	課題なし	教務役割表 問題審査会資料
3-12-6　カリキュラムを定期的に見直しているか	企業ニーズ、社会情勢、学生ニーズを捉えてカリキュラムを毎年見直す。	各科のカリキュラムは毎年度見直しを図り、必要に応じて改善されている。	今後は電動化新技術系教育のカリキュラム取り組みが課題であり、設備を含め3か年を目途に順次対応をしていく 新2級課程対応も準備していく	指導要領 （＊シラバスは開示用、基本は指導要領を作成し運営）

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各学科の目標達成に向けカリキュラムが構成されている。監督官庁である国土交通省が定めた標準教育時間に沿う形でカリキュラム時限数を設定すると共に内容等を見直している。	学生の基礎学力の低下が顕著であるため国土交通省基準を遵守しながら、学生の能力や技術革新に合わせた授業内容の改革を行う。 新技術・次世代技術に対応できるよう、現状の課題への対応も含め、より良い人材育成が出来るように変更を実施していく。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	神通　邦彦

3-13　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-13-7　学科の各科目はカリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	各科目において整備士養成課程の標準教育時間に適合させる。 あわせて教育科目内容を合致させる。	適正にカリキュラム中に位置付けされている。	課題なし	教育時間配分表 指導要領
3-13-8　各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	各科毎の授業時限数、 授業時間割、指導目標等を定めた指導要領を作成し、それに沿った授業を行う。 またシラバスも作成し開示する。	各科毎の授業時限数、授業時間割、指導目標等を定めた指導要領を作成している。 合わせてシラバスも作成し開示している。	シラバスは必要事項を開示しているが、今後は様式の変更を行いより分かりやすくする必要があると考えている。	指導要領 （＊シラバスは開示用、基本は指導要領を作成し運営）
3-13-9　各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	学科、実習とも１科目全体の指導要領を作成し、その中の一コマの授業について教育内容、習得要点などを明確にしている。	１科目における全体指導要領（シラバス）を作成し、その中に授業項目（一コマの授業内容）における指導内容を明記している。	上記に同じ。	指導要領 （＊シラバスは開示用、基本は指導要領を作成し運営）

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
カリキュラムは教務担当者（科目リーダー）による見直しを各会議にて行っており、変更改善が必要であると判断した場合アップデートを行っている。 シラバス及びレッスンプランは当校では指導要領及び教案であり、その作成については継続して行っており、今後も教職員間で内容について協議するなど、さらに内容の充実を図ることを考えたい。	シラバスは公開用としてホームページにて掲載され閲覧できる。 企業の求める実習授業と資格取得授業との整合・実施を更にすすめていく

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	神通　邦彦

3-14　キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-14-10　キャリア教育が行われているか	社会人として環境に適応できるためのキャリア教育は必要であり、重要な教育と位置付けている。	整備士養成施設であるため、整備士として必要な知識･技術､開発エンジニアとして必要な知識・技術のほか社会人として必要な教育も行っている。	課題なし	教育目標 指導要領
3-14-11　キャリア教育の実効性は検証されているか	専門学校の社会的貢献はキャリア教育にあるので、教育内容の検討において、その実効性を常に検証する。	教育課程編成委員会や卒業生の配属先の訪問による情報交換やCS調査により、教育効果を確認している。	課題なし	CS調査

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
国土交通省から整備士養成施設として指定を受けているため、整備士として必要な知識・技術の教育活動を実施しているほか、開発コースは開発エンジニアとして必要な知識･技術の教育活動を実施している。また、社会人として必要な教育も行っており、キャリア教育は実施できている。 教育の実効性の検証においては、CS調査を実施している。	卒業年次には就職が内定している為、キャリア教育の一環として内定先企業実習を実施している。専門スキルのみならず社会人として求められるスキルを学ぶ場として大いに役立っている。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	神通　邦彦

3-15　授業評価の実施･評価体制はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-15-12　学生による授業評価を実施しているか	学生による授業評価を定例実施する。	各授業（学科、実習）終了時に授業アンケートを実施し、まとめている。結果については全体への配信共有、リーダー会議等で報告・共にて改善を図っている。	しっかりと授業評価を得ることが出来ている。特に大きな課題はないが日頃からの改善は継続していく。 今後は評価項目の見直しなどを行いより効果的なものとしていく必要がある	学生授業アンケート
3-15-13　授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき、学科や学校として把握・評価する体制があるか。	各科目においてリーダー･科長等が授業評価（現場確認）を不定期に実施する。 授業アンケートにおける授業評価も行い、改善につなげる	リーダー･学年･単元会議等にて授業アンケート結果共有とそれからの改善点の確認・対応検討などを図っており、本人へのフィードバック及び部科長が評価指導を行っている。また、部科長による授業巡回確認も実施している。	コロナ終息に伴い、授業方法も元に戻ることになったので現場の確認･評価を継続して実施出来る体制を再構築していく。	学生授業アンケート 在校生ＣＳ調査 卒業生ＣＳ調査

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
授業評価を実施しており、評価結果については、評価取り纏め担当者が会議等を通じ発表するとともに、詳細についてはデータを教職員の中で閲覧できる体制となっている。 必要に応じ個人評価データについても確認し、授業改善へフィードバックを図っている。 職員への個別面談でも活用しており、教職員個人の目標に関連付けをしている。	各授業のローテーションが終了する毎に、授業アンケートを実施。 教職員個人の意識に差があるため、情報の共有を今後も積極的に行い継続的な改善を図る。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	神通　邦彦

3-16　育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-16-14　学科の育成目標に向けた授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格等）を備えた教員を確保しているか	第一種養成施設　（国土交通省）の指定基準に従い指導員登録を行う。 （基準を満たしていない教員は補助教員として登録） 大阪府教員研修の参加と専門課程教員資格の取得	基準を満たす教員は確保している。 一級整備士資格取得者は更に増やす必要がある。 リスキリングを踏まえ取得推進を進めた。	まだまだ一級整備士資格者が不足している。 よって増員は継続的に推進していく。 加えて、女性整備士の増強のために、女性教員の確保を推進	組織図 指導員一覧表
3-16-15　教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	国家資格については二級以上を取得する。 新技術については外部研修に参加、既存の教員研修等へも参加してレベルの向上に努める。	一種養成施設の指定基準はクリアしている。 新技術については、Honda新機種講習等により最新業界レベルに対応している。 一方、若手教員は経験不足、ベテラン教員は新技術への対応などの課題がある。	教職員の資質向上を図るために、様々な授業を幅広く受け持つ体制を構築する。 各々のスキルに沿った研修受講などにより、一層のスキルアップを図る。外部との関わりを持つように積極的に研修等へ参加させていく。	指導員一覧表
3-16-16　教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	職業履歴及び Honda の資格認定基準に沿って専門性を把握し、評価する。	整備経験年数（教員経験年数）と取得資格及び担当科目の経験年数で専門性を把握し、基準に基づいて評価している。	課題なし	指導員一覧表
3-16-17　教員の専門性を向上させる研修を行っているか	外部研修、 内部研修を計画的に実施し専門性を向上させる。	個人参加型技術講座への参加 大阪府教員研修への参加 スキルアップ講習･他校交流会 その他 JAMCA 主催研修へ参加している。	外部研修の機会も復活してきたが適切な研修が開催されていない事や授業等の兼ね合いでうまく参加出来ないなど課題も残る。 WEB 対応研修などへのシフトも進めていく。	

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-16-18　教員の教授力（インストラクションスキル）を適宜把握し、評価しているか	学生と他の教職員の意見をもとに教授力を評価する。	学生による授業アンケートや授業巡回などを実施し、個々の教員の能力を把握し評価している。	学生の質変化により、様々な状況に対応できるスキルがもとめられている。 授業現場の確認など、日常からの適宜把握を行う	学生授業アンケート
3-16-19　教員の教授力（インストラクションスキル）を向上させる研修を行っているか	教員ごとの能力、役割ステージに応じた研修を行う。	新任教員は新任教員研修に参加している。また3年目程に中堅教員研修への参加としている、教職員全体での研修は時代に合わせた対応が必要である。	教授力を向上させる研修は、現行外部研修に頼りがちである。 今後は内部研修を強化すると共に外部の講師も合わせ教員の能力に合わせたものを準備しスキル向上を強化する	
3-16-20　教員間（非常勤講師も含めて）で適切に協業しているか	定期的に実施する科の会議及び個別での学年会議等で教育面、管理運営面について意思疎通を図り適切に協業する。	日頃からの意思疎通を通じて他の職員と適切に協業している。一方、他の科・学年間では業務が異なり、協業しにくいことがある。	他の科･学年間での協業については、リーダー会議等を通して情報共有を図り、協業を促進する。 役割分担など付帯業務での協業は推進できる。	
3-16-21　非常勤講師間で適切に協業しているか	常勤教職員同様	常勤教職員同様 該当担当時間に出勤される場合が多く、該当する課程学科教員とのミーティングなどを通じ協業できるようにしている。	特になし	

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-16-22　非常勤講師の採用基準は明確か	自動車整備系： 国交省基準に則していること 開発系： 科目に必要な専門性を有していること	基準に則した採用を行っている	課題なし	非常勤講師契約書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
整備専門学校は第一種養成施設の指定基準に準拠する必要があるため資格（整備士資格）、整備経験年数及び学歴等を満たした教員採用をしている。 また、一級整備士資格未取得教員に対しては、取得済み教員が教育を行うなど教員として必要な指導を実施している。 あわせて開発系においては養成施設基準外の授業を行っており、専門課程教員として該当する要件、経験値を備えた教員にて指導を実施している。 今後は、技術的な進歩に対応でき、指導力を向上させる様、個々のスキルアップは必要不可欠であり、そのような優秀な人材を採用することも合わせて検討する必要がある。	各自動車メーカー現場経験教員　（整備士経験）を有しており、教材についても他メーカーも考慮して揃えているため幅広い教育が可能である。 また、研修に参加する職員に偏りがあるので、職員の経験や能力に応じ、計画的に参加出来るよう調整を図る。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	神通　邦彦

3-17　成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-17-23　成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価、修了認定の基準を学則及び細則に定める。 当校は単位認定ではなく、履修時間数及び評価による修了認定としている。	学則および細則と合わせて評価規定は、明確となっている。	課題なし	学則・細則 試験規程
3-17-24　他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	大学の単位変換を基本とする。	当校は 90 分の単位時間授業であるので､1 単位時間 50 分に変換し、それを基に大学の単位変換基準に基づき算出している。	課題なし	大学単位換算基準時間 学科：20 時間/単位 実習: 40 時間/単位

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価基準は学校側の主導により明確に定めてあり、その基準に従い教員、非常勤講師は成績評価をしている。 また、学生には学則および細則抜粋を全員に配布し周知徹底している。	学科については筆記試験、 実習については実習レポート評価と実技試験または、作品等成果物の出来栄え等で評価している。 その他、日常における授業への取組み姿勢での加減点も考慮される。 履修は単位認定ではないため、他の教育機関との単位互換は基準値を用いて実施している。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	神通　邦彦

3-18　資格取得の指導体制はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-18-25　目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	国家自動車整備士資格取得を目標とし、一種養成施設の要件である教育時間数とカリキュラム内容を満たすことが必要となり明確になっている。	国家整備士資格を取得できるためのカリキュラムであり、明確に定められている。整備士以外の資格である危険物等の各種資格に対しては担当者を決めて対策カリキュラムを組み取り組んでいる。	危険物取扱等の各種資格については、キャリア教育での必要性を判断し、必要最低限の資格受験体制としている。反面学生の取り組み姿勢の向上が課題である	
3-18-26　目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	個々の学生の能力に的確に対応し、二級整備士、一級整備士資格とも100%の合格率を目標とする教育内容とする。	日頃の授業における理解度向上サポートに加え、毎年、登録試験対策プロジェクトの体制をとり、各級とも取得を強力にサポートしている。また、低学力者の個別指導体制も強化している。 2024年度の二級整備士資格については、100%の合格（無資格者なし）であった。	二級整備士においてはガソリン資格１名不合格･ジーゼル資格は100%合格となった。 今後も対策プロジェクトの改善を含め 100%合格の必達を使命として対応を図る。 一級整備士においては筆記・口述試験とも 100%合格であった。 今後も継続したサポートと対応改善が必要である。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
整備士資格以外はカリキュラム上、取得可能資格として、資格取得のサポートをしている。 基本はすべて必須取得として取得できる体制をとっているが合格実績（合格率）は最近低迷している。 更に継続して取得サポート体制の改善を図っていく。	放課後等の時間外を利用した資格対策を実施しているため、 更に改善を図った授業時間内サポートを強化できる体制を構築する必要がある。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	神通　邦彦

基準４　教育成果

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校生活の中で、学生個々にしっかりと目的意識を持たせることで、 資格の合格に向けた努力や意欲が見られ、良い成果を上げている。 一級自動車整備士の筆記試験合格率においては問題出題傾向は比較的標準であったが、学力低迷傾向もみられ個別対応の改善を実施してきた結果もあり全員合格することが出来た。 全国合格率も６１％（２０２４年度）と、やや高い合格率となっており、他校においても１００％合格もあることから、今後も１００％合格が継続できるように、より一層の対応が求められている。 資格取得に対するモチベーションの向上・維持に大きく左右する要因である学生同士が励まし教え合う良い雰囲気をクラスの中に創ることが成果に結びついていくと考える。 　また、留学生における日本語能力も課題であり、１級取得にとっては大きなポイントになる。 　退学率低減の取り組みにおいては、日々の授業や学生指導の方法を常に見直すことが必要であり、教職員はその変化に対応しなければならない。 ２０２４年度は行事関連を復活させることが出来、コミュニケーションの向上が図りながら、個別面談による早い気付きと指導を推進してきた。合わせて今期もカウンセラーとの面談機会も増やし就学や生活への悩み相談対応も図ってきた。その他意欲向上施策、興味促進施策、日常指導の改善なども検討していきながらではあったが結果は昨年度よりも退学数が増加し目標は未達成であった。学生の思考そのものが変化している傾向に対して今後も継続的な対応を図っていく事が必要と考えられる。 合わせて入国してくる留学生の国籍事情も変化してきており、日本語能力も差が大きくみられるようになっている。多国籍化に合わせた教育、指導が求められる状況となっている。また、就職活動においては、就職斡旋希望者の内定率が毎年１００％を達成しており、日常の教育成果であると認識している。 就職先は整備士や開発技術者を選択しているが、その就職先企業様の中においても、卒業生はそれぞれのポジションで中核を担い、社会に貢献している。	１．就職内定率 就職斡旋希望者の就職内定率は毎年１００％を達成している。 一方、学生の就職活動意識が変化し、１００％内定達成時期は、年々遅くなる傾向が見られる。 ２．資格取得率 主要資格については毎年高い合格率となっている。（２０２４年度） ・二級ガソリン自動車整備士…全科合格率　９９．３％（１名不合格） ・二級ジーゼル自動車整備士…全科合格率　１００％ ・一級小型自動車整備士（筆記試験）…合格率　１００％ 〃　（口述試験）…合格率　１００％ ３．社会人マナー・マインドを身につける教育 日常管理項目　定期試験合格率…89.3%（＋0.6%） 卒業生マナー項目 CS 結果…4.4pt（±0pt） ４．退学率・休学率 退学者数の目標を２０２４年度も引き続き関西校３％以下と定め、 指導を実施。（学園全体では５％以下を基準） ・２０２４年度 退学率 8.1%（前年度比プラス 3%） ５．社会的な活躍・評価 ホンダサービス技術コンクールでは、入社１年目より優秀な成績を収め、 数年後は全国大会に出場するなど、良い評価を得ている。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	神通　邦彦

4-19　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-19-1　就職率(卒業者就職率･求職者就職率･専門就職率)の向上が図られているか	学校斡旋で自動車業界を中心に就職活動をする学生については、責任をもって全員の内定を得る。	内定率は目標の100%を達成している。	早期の100%達成に対して対応が必要 ※年々100%達成時期が遅くなってきている	就職先系列別就職状況
4-19-2　就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	求人情報を的確に捉え、就職成果を注視しながら、求人情報をタイムリーに提供する。	月毎に就職状況の進度について、表及びグラフを掲示し、進度管理を行っている。	課題なし	月度別内定実績

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職指導担当者が主となりクラス担当と協同し、着実に学生が就職活動を行えるように指導を行っている。 学生の中には、学校からの支援を必要としない自己活動を希望する者もいるため、個々の状況に応じて指導をしている。	自動車整備業界の就職活動時期が早まっており、学生にとっては早期対応が望まれている。 学生の就職意識向上がポイントとなっており、指導体制の改善などを考える時期に来ている。 就職後に影響する自動車運転免許を取得できていない学生が散見されるようになり、2023 年度から展開している取得推進強化は 2 年目となり、計画的取得推進が図れている中で留学生においては日本語力による影響は否めない。 就職活動時期としては、卒業年度の前年から始まり、翌年末終了を目標に推進している。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	神通　邦彦

4-20　資格取得率の向上が図られているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-20-3　資格取得率の向上が図られているか	学生の変化に的確に対応し、一級整備士、二級整備士資格ともに、100%合格を目標とする。	一級整備士は筆記試験合格率92.3%で２名不合格となってしまった。 二級整備士はガソリン1名不合格となったがジーゼルに合格した為無資格者はなかった。体制を再構築していき100%合格を目指す。	毎日の小問題演習や個別補講等の反復学習を充実し、今後一層の学力の定着を図る必要がある。	
4-20-4　資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	資格取得者数および推移に関する情報を明確に把握し、資格取得率向上に努める。		課題なし	登録試験報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校生活の中で、年間を通してそれぞれの資格対策において取得推進を図っており、学生には個々の資格取得、合格率 100%の達成に向けた努力や意欲が見られる。 その中でも少数ではあるが資格の重要性を十分に理解しておらず取れたら良いという甘い考えもあるので引き続いての指導が必要である	学生毎の学力格差が大きくなる傾向にあり、能力別の的確な対応を行っている。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	神通　邦彦

4-21　退学率の低減が図られているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-21-5　退学率の低減が図られているか	学園全体では５％を目標とするが関西校では引き続き退学率3%以下を目標として取り組む。	2024年度は校外オリエンテーションなどを通じコミュニケーションの醸成などが図れた。昨年度同様に担任面談の早急な実施、カウンセラー活用向上を図ってきたものの4月から退学が発生し、その後も毎月のように増加した。最終的に8.1%と昨年度を大きく上回る結果となり、目標は未達であった。 特に留学生における退学、また、1年生における退学が増加傾向となった。	留学生の退学背景と日本人学生では退学する要因に違いがある。日本人学生においては成績不振から意欲を無くし退学する傾向や、安易な進路決定などの退学背景があり、意欲が継続しないのも多い。 一方留学生においては日本語力の影響、学費や生活費の工面に関する要因などが多い。 個別のフォローを充実させ、修学を継続させる仕組みを構築する。	退学まとめ
4-21-6　入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	入学時の学生数およびその後の退学に伴う在学者数の推移を適時把握し､退学者の削減対策に活かす。	休退学手続きの終了後に学籍システムへの入力を行い、月末統計表で把握できるようになっている。	課題なし	在籍人数表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
退学率の低減に関する目標は数値化され、またその低減を図るべき明確な方針が年度当初に掲げられており、その目標に向け教務部、担任、教科担当が各々自覚を持ち日常の学生指導にあたっている。 また、カウンセラーとの相談も重要なファクターとなっている。 合わせて、学生の思考・環境は年々変化しているので、教職員も変化に対応した指導力・対応力が求められる。	従来は退学理由の中で最も多いのは成績不振であったが２０２４年度は進路変更（就職）が多く、成績の状況や安易な進路決定などにより他の方向に転換するケースが多くなって来ている。一方留学生では学費や生活費の面から他分野の専門学校への進路変更となるケースが多く、帰国するということは少ない。 様々な背景の中で退学防止を図るためには、個人面談等を通じ学生とのコミュニケーションの更なる充実、個々の状況の把握や分析が求められる。 合わせて、次年度以降では学費分納、延納制度などを開始するなど出来ることを考え、実行していくことが必要である。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	神通　邦彦

4-22　卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-22-7　卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	CS調査アンケートや訪問聞き取り調査を行い評価等の把握を行い、授業等にフィードバックする。	CS調査アンケートや企業訪問を実施し卒業生の状況や学園への要望等を収集している。しかしながら収集した情報を教育や指導に十分に活かしきれていない。	CS調査や販社訪問により集められた情報を精査し、教育や指導に反映させる。	インターンシップ報告書 CS調査
4-22-8　卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	Hondaの主催するサービス技術コンクール等での活躍を把握し、紹介する。	ホンダサービス技術コンクール等へ出場し、全国代表に選出されるなど、技術力においても高い評価を得ている。	課題なし	
4-22-9　在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	表彰制度を充実し、外部からの評価において成果を称え学生全体の士気を高めて行く。	部同好会活動等の活動成果等は始業式・合同終礼等で報告し、学生全体のやる気を高めている。	整備系学科においては、外部コンテスト等の活躍の場がない 主が部活動等になる。	
4-22-10　在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか	上記と同じ	【Ｆ－ＳＡＥ部】 学生Ｆ日本大会：35 位/75 校 【Ｒ＆Ｍ部】 N - ONE/OC 鈴鹿決勝大会：15 位 大阪オートメッセ：ブース出展	過去に活躍していたエコラン部の活性化、レストア部によるレストア済み旧車などの出展など、在学生が評価される事項はまだあり、機会創出を図る	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
整備領域においては、サービススタッフの職種で一定以上の評価を得ている。 開発領域においては、各メーカーでの活躍が期待されており、企業からの評価も高い。	課外活動は在学生が授業以外で活躍できる貴重な機会である。引き続き教育の成果として社会から評価されるような取り組みを継続していきたい。 合わせて、整備系卒業生における社会的評価は技術コンクールで評価され、過去から積み上げてきた優秀な結果を今後も積み上げていくことが出来るようにしっかりと教育をいていく必要がある。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	神通　邦彦

基準５　学生支援

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校の学生支援には次のようなものがある。 １．進路指導 ２．学生相談 ３．経済的支援 ４．学生の健康管理 ５．課外活動 ６．学生の生活環境 ７．保護者との連携 ８．卒業生への支援 これらについては、教務部、学務室の各部署が担当し、学生が充実した学校生活が送れるよう最善を尽くしている。 これにより、豊かな人間性を養い、社会の中で活躍する学生を育てていく。	１．進路指導には就職・進学とある。就職希望者の内定率 100%を目標とする。 ２．学生相談は、教職員のカウンセリングスキルを向上させて、適切な助言等ができるようにする。 ３．奨学金制度を広く適用し、学生の経済的負担を軽減させる。 ４．年１回の健康診断の実施と保健室を設置している。 健康管理は、学校指定総合病院で行っている。 ５．本校後援会からの支援により、部・同好会活動などが活発になされている。 ６．利用者が減少し、老朽化の進行が加速したため、2023 年 3 月末を以って、学生寮を閉鎖。1 人暮らしを始める学生にはホンダ学園が提携している不動産を紹介 ７．保護者との連絡は、電話または文書連絡等で行い、必要に応じて三者面談を実施している。 ８．本校同窓会においては、ＨＰを活用して支援活動を行っている。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

5-23　就職に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-23-1　就職相談室設置など就職支援に関する体制は整備されているか	就職担当職員が進路先と連絡を取り合い、担任を交えて学生とのコミュニケーションを図り、必要な情報の提供と就職の機会の提供をする。	就職相談室を含め、就職担当職員及びクラス担任が連携し、円滑に運営されている。 無料職業紹介所の届出済み。	課題なし	職務分掌
5-23-2　就職に関する説明会を実施しているか	就職担当職員による説明会、また、学園内での企業セミナーを行い、学生へのきめ細やかな指導を行う。	学園内にて、ホンダ学園賛助会企業セミナーや一般企業セミナーを実施している。	課題なし	就職活動セミナー 就職活動スケジュール表
5-23-3　就職に関する学生個別相談を実施しているか	随時、適切なアドバイスを与えることのできる体制を整える。	就職担当職員は就職相談室にて昼休みや放課後の時間を使って学生との対応を十分に実施している。また、放課後を利用して担任との面談も実施されている。	課題なし	職務分掌
5-23-4　就職の具体的活動（履歴書の書き方など）に関する指導を実施しているか	企業セミナー、企業訪問、採用試験に対して、事前に必要な指導を行う。	「就職の手引き」を製作・配布し、担任を通じ、具体的に就職活動の進め方を指導している。 適性検査を就職活動前に実施し、学生の自己分析に活用している。	課題なし	就職の手引き 適性検査

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校では無料職業紹介所を開設し、職業指導の基本方針、対策、情報収集、求人企業開拓のための企業訪問等を積極的に展開し、ホンダ学園賛助会企業と綿密な連携を保ちながら多数の求人を獲得している。	就職活動は、学校と企業とが合意の上で行われ、例えば、学内での企業セミナー実施や学校経由での企業訪問・採用試験エントリーなどがある。 企業訪問後の受験、ひとり１社受験をルール化して、公正な就職活動を行っている。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

5-24　学生相談に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-24-5　学生相談室の設置など学生相談に関する体制は整備されているか	相談室を開設し、開設日、相談担当者を学園ガイドにて明確にする。 また、各クラスに１名以上の担任をおく。	相談室は週１回以上の開設とし、できる限り常駐化を実施した。 学生からの相談は、主にクラス担任が担当し、更に学年のリーダーがサポートすると同時に女性教職員による女子学生の相談にも対応している。	課題なし	学園ガイド 職務分掌
5-24-6　学生からの相談に応じる専任カウンセラーがいるか	専任のカウンセラーを配置することで、専門的なアドバイス体制を構築、学生をサポートする。	週2回、専任カウンセラーが来校し、対応している。 また、クラス担任制を敷くことで学生からの相談にクラス担任が適時対応している。	日常的に接する教職員に対して、コミュニケーション研修(心理学寄り）を開催し、カウンセラーと連携して学生対応能力の強化を行っている。	学園ガイド 職務分掌
5-24-7　留学生に対する学生相談体制は整備されているか	留学生特有の相談を想定し､担当者を選任し対応する。	日常及び学校生活については、基本的に就職担当が対応するが、留学生科の教員と連携しながら体制を整えている。	かつてはベトナム人留学生が大半を占めたが、近年は多国籍化し、相談も多様化。ノウハウを共有･蓄積して迅速に問題解決を行う	学園ガイド 職務分掌

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生の相談に対応するための体制は整っている。 個人の持つ悩みや問題を解決するため指導や助言を行い、充実した学生生活を送ることができるように、相談を進めている。	● 学生のプライベート領域において、学業継続に支障をきたす、もしくは社会的な問題に発展しかねないリスクの高い案件が、近年、増加傾向にある。カウンセラー・教職員が連携、一体となって迅速に対応して、トラブルのエスカレーションを回避するために相談・情報共有フローを再整備した

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

5-25　学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-25-8　奨学金制度は整備されているか	より多くの学生への学びの場となれるよう、奨学金制度を整備する。	日本学生支援機構の奨学金制度が有効に活用されている。 またCars企業奨学金制度の活用推進を促し、企業推薦枠での募集活動施策とも連動させている。	企業奨学金制度を有効に活用し、入学者増加につなげる	学生募集要項
5-25-9　学費の分納制度はあるか	より多くの学生への学びの場となれるよう、分納・延納制度を整備する	今年度より学則を変更し、学費の分納、延納を制度化し、家計の状況に応じ、学費の支払い方法を選択できるようにした。	延納・分納制度を利用する場合、個々の学生にあわせた無理のない支弁計画を作成し、滞納を回避する	学則

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しており 専門学校評価基準を十分に満たしている。 課題は、近年留学生を含めて授業料納付困難者が増加している点を踏まえて、 この制度をより充実させる必要がある。	Cars企業奨学金制度活用による学生募集の強化

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

5-26　学生の健康管理を担う組織体制はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-26-10　定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	学校医による支援体制を設ける。	隣接する総合病院を学校医として委託契約を結んでいる。 毎年度当初に全学年を対象に学校医による健康診断を行い、学生の健康管理を実施している。 また学校医の奨めにより、学生自身で計測ができる血圧測定器を設置した。（後援会寄贈品）	課題なし	年度カレンダー
5-26-11　学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか	学校医による支援体制を設ける。	必要に応じて学校医に相談している。	課題なし	産業医委嘱受諾書
5-26-12　感染症等に対して予防／拡大防止体制はあるか	各種感染症の対策体制を整える。	各種感染症予防対策として、手指消毒、検温の励行、マスクの自己判断着用等、個人管理の徹底を含めて健康管理をしている。	コロナが 5 類感染症への格下げ変更に伴い、徐々に通常期への環境に戻しながら、都度必要な感染症対策を行っていく。	国/行政からの各種通達

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校医の対応により学生の健康管理は適切に実施されている。学生の登校状況、保健室の利用（傷病の申し出）状況は毎日管理され、心の健康（メンタル相談）にも配慮している。	学生個々の健康状態については、必要に応じてクラス担任から学務室に連絡され、隣接する総合病院で、適切かつ相応な対応処置がなされている。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

5-27　課外活動に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-27-12　スポーツ等のクラブ活動、その他、課外活動に対する支援体制は整備されているか	個性の伸長、指導力、安全思想、友愛と協調の精神を育むことを目的に同好会活動を推進する。 授業と並立することで一人ひとりのもつ多様で特色ある能力や個性を効果的に伸ばす。	学生の自主活動を基本とし顧問教員によるサポートを行っている。必要な費用は後援会費より支出しており、保護者の理解のもと推進体制が作られている。	課題なし	部・同好会活動計画及び報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
同好会活動などの課外活動への支援を積極的に行っている。 Honda グループの強みを活かし、更なる支援体制の充実を図る	特になし

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

5-28　学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-28-13　遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	利用者が減少し､かつ建て替えが必要な程に老朽化が進行したため、2023 年 3 月末を以って、学生寮を閉鎖。	計画通り 2023 年 3 月末で閉寮。一人暮らしを始める学生にはホンダ学園が提携している不動産を紹介	一人暮らしの学生が近隣住民から愛される行動を実践できるよう、学園ガイドに注意事項を記載し、適宜マナーの指導を行う	ホームページ

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
遠隔地から応募いただく学生および保護者には、オープンキャンパスの個別面談時に、できるだけ具体的な生活環境をお伝えし、入学後の不安を軽減できるように努めている。	特になし

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

5-29　保護者と適切に連携しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-29-14　保護者と適切に連携しているか	後援会総会、後援会役員会、保護者見学会等を通じて学校の状況を報告し十分な連携を図る。学生が学業と学園生活を充実するため、必要に応じて、その都度連携を行う。	年3回の後援会役員会を実施 保護者見学会も併催。 また必要に応じて保護者と学生を交えた３者面談も実施している。	課題なし	学園ガイド

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
後援会総会、後援会役員会、保護者見学会等を通じて学校の状況を報告し十分な連携を図る。 出席状況、成績状況など、必要に応じ保護者に来校頂き、学生本人と担任を含めた面談を行い、保護者と連携をして適切な指導を行っている。	状況に応じ、クラスリーダー、科長、部長などが三者面談を行う。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

5-30　卒業生への支援体制はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-30-15　同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	同窓会を組織・支援する。	同窓会が組織されている。 現状は、個別の同窓会開催情報があれば、ホームページ等で紹介している。	課題なし	同窓会会則 ホームページ
5-30-16　卒業生をフォローアップする体制が整備されているか	教職員が就職先を訪問し、卒業生情報を収集してフォローする。	在校生のインターシップ先の企業訪問時に卒業生就職先企業から情報を収集し学生管理システムに反映している。	定期的なアップデートの手法見直し	学生管理システム台帳

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
同窓会へはオンデマンドベースで活動を支援	特になし

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

基準６　教育環境

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は建学の志にある 「世界に歓迎される人間の育成を使命」とし、 「人に愛され信頼される技術者」を育てる場としての校地と校舎、学生食堂、学生寮を完備し、教育上の必要性に十分対応出来る様に整備され、活用されている。 校舎については非構造部材の耐震診断（本田技研工業の基準）の結果、補強が必要との判定を受け、平成２７年８月に非構造部材の耐震補強工事を完了した。 また、設備、機器、教材についても中期経営計画に基づき計画的に最新機能を備えた設備の導入、実習車両教材および測定機器の更新を行なっている。	自動車整備士の第一種養成施設であるため、施設・設備について以下の指定基準を満たす必要がある。 (1) 教室の定員は原則として５０人以下とし、教育を受ける者１人について１．２㎡以上の広さを有していること。 (2) 実習場は、同時に教育を受ける者１人について６㎡以上の広さを有する屋内実習場であること。 (3) 実習用機器設備 同時に教育を受ける者の人数に応じて適切な数の指定機器設備を保有すること。 (4) 教材 教材は、自動車の一般整備技術の教育に必要なもので、養成しようとする整備士の種類に対応したものが十分確保されていること。 ① 教材用の車両は、同時に教育を受ける者１０名に１両以上備えること。 ② 教材用のエンジンは、同時に教育を受ける者１０名に１基以上備えること。 ③ 教材用のエンジン関係主要部品、 シャシ関係主要部品及び電気関係主要部品等は、同時に教育を受ける者に必要な数を備えること。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

6-31　施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-31-1　施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	教育上必要な機器や設備を計画的に整備する。	中期経営計画に従って施設・設備を導入している。 学生数に対する教場面積、教材及び設備・機器等はすべて第一種養成施設指定基準を満たしている。	課題なし	経費・投資計画（工事計画） 中期経営計画
6-31-2　施設・設備のメンテナンス体制が整備されているか	Honda の安全に対する基本的な考えである「安全なくして生産なし」に基づき整備する。	電気、空調、衛生、防災、昇降機設備は専門業者とそれぞれ業務委託契約を締結し、定期点検が実施されて正常な状態に保たれている。	課題なし	経費・投資計画（工事計画） 中期経営計画
6-31-3　施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	中期経営計画に基づき施設･設備の更新を実行する。	中期経営計画に基づき教育上必要な機器や設備を計画的に整備している。	課題なし	経費・投資計画（工事計画） 中期経営計画

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自動車整備士の第一種養成施設の指定基準を満たし有効に活用していると判断する。施設･ 設備のメンテナンスについては、専門業者に業務委託している。	設備改修予算が限られるので、できるだけ日常メンテナンスを強化し、大きな不具合を回避できるようにしていく

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

6-32　学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-32-4　学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、充分な教育体制を整備しているか	Hondaグループと連携し、学外実習、インターンシップ、海外研修において、安全かつ高水準の教育を提供する。	Honda Carsを中心した販売店に加え、開発、製造系の企業でインターンシップを展開している。	二級整備士課程における企業実習では内定先企業様を基本に連携し受け入れと教育を実施していただいているが内定時期の遅れが近年顕著化し、企業実習に行けず、学内研修にて企業講師からの教育を受ける人数が増加傾向にある。早期内定の実現や実施時期の検討などを行っていく。	インターンシップ受入企業一覧
6-32-5　学外実習、インターンシップ、海外研修等について、その実績を把握し教育効果を確認しているか	学外実習、インターンシップ、海外研修において参加学生のアンケート調査や企業からの評価表により実績と教育効果を確認し、研修の改善に努める。	学外実習、インターンシップの終了後に参加学生のアンケートを実施し教育効果を確認している。またインターンシップにおいては、実習先企業から評価表の提出を受け、教育効果を確認している。 ※現在、海外研修は実施していない。	課題なし	インターンシップ評価表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
一級課程のインターンシップは第一種養成施設指定基準として明確に定められているため、近隣のHonda販社や就職内定先の協力のもと実施している。 Hondaグループの強みを活かし、より良いプログラムへ進化してきている。	Honda関連メーカーの協力を得て、学内においても企業様を招いた技術講習会を行っている。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

6-33　防災に対する体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-33-6　防災に対する体制は整備されているか	「安全衛生活動計画」により防災組織、役割及び活動内容等を明確に定める。	体制が整備され、有効に機能している。	課題なし	安全衛生活動計画
6-33-7　災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	設備・機器の新規導入時は、使用者への取扱い教育を行い、災害防止に努める。	新たに導入された設備・機器は、購入時に関係教職員全員に取扱い方法と共に伝達され、学生にも必要に応じて教育している。 また、設備・機器にマニュアルを備え付けている。	課題なし	
6-33-8　実習時等の事故防止の体制は、十分か	実習開始前に十分な安全指導を行い、過去の事故事例を共有するとともに、個人の体調把握に努めることで安全作業を徹底する。	実習前に十分な注意喚起と準備体操を行っている。 教職員全員で他事業所の事例を含めた事故事例を共有している。 「安全なくして生産なし」 「３Ｓ（整理、整頓、清潔）」 「ヒヤリ、ハットシート」 を実習場等に掲示。	安全衛生員会で定期的に学園内を巡視し、問題があれば速やかに対策をしていく。	安全掲示物
6-33-9　万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	保険加入により（建屋、設備、機器、書籍等）学園財産の毀損を最小限にすることを目指す。	火災保険に加入（特殊包括契約）している。	課題なし	

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-33-10　防災訓練を実施しているか	毎年の新入生への訓練を重視し、４月（避難訓練）と９月（防災訓練）に訓練を実施し、万一の場合の安全確保に努める。	熱中症リスクを考慮し、開催時期や内容を調整して実施。	課題なし	避難訓練実施要領 防災訓練実施要領

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
防災に対する体制は整備されているが、安全に十分という事はないので、定期的な見直しをより綿密に行い、学校の教育環境全般について安全防災教育を一層推し進めていく。	2025年度は熱中症対策として、9月分は10月末に実施予定

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

基準７　学生の募集と受け入れ

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
募集活動の目標と方針 募集活動を取り巻く環境は少子化、大学全入時代、若年層のクルマ離れ等の理由で依然として縮小傾向にあり、先の読めない厳しい活動となっている。 本年度の方針としては、「学生数と質の確保」及び「定員の適正化」に重点を置き推進。 主な施策を以下に示す。 １．地域密着型高校訪問による入学者数確保（エリアマネージャー） ２．本田技研工業・販社との協力体制の構築 ３．オープンキャンパスの刷新 ・体験型 ・保護者視点での休日開催型（保護者相談会の併設） ・オンライン型（遠方対応） ４．高校内で実施するガイダンス・出前授業の強化 ５．将来人材（小学生・中学生）に向けた仕込み施策の推進 本校を取り巻く Honda グループの市場環境は、今後益々、整備士の需要が高まる事が予想される。 学生募集においては、縮小傾向にある整備士志望の高校生確保と販売会社の需要の高まりを受け、難しい局面に来ている。 こうした環境下における状況を分析し、学生募集戦略を明確化することで学生募集目標数の達成を目指している。	①　主要エリア（大阪・兵庫）からの獲得強化 全体の約 8 割を占めるエリアを重点的に攻め、特に SNS 等を活用したダイレクト広報訴求（B to C）を強化し、保護者へのアプローチ、学生へのアプローチと棲み分けをしながら、学校の PR 活動を一歩前進させています。 ②　Cars／Dream 推薦制度の活用拡大 企業様と連携して、販社様へ出向いて学校説明会や個別相談会を開催し、学校の認知度を高めています。 ③　Web・SNS を活用した学生・保護者へピンポイント広報による募集活動 学園の認知・興味を向上させるため、Web・SNS を活用した募集活動を実施している。学生の進路決定に不可欠な保護者に対してもピンポイントで情報提供できるよう、特別なアルゴリズムを使用して学園情報を訴求していています。 ④　小学生や中学生を対象にした将来キャリアのイメージ醸成 少子高齢化の煽りもあるが、小学生や中学生をターゲットにした自動車業界のガイダンスや販売会社様と連携した「職業体験」、オープンキャンパスイベント等を活用した「モノづくり体験授業」等を通じて、将来の職業人材として自動車業界、専門学校を知って貰うことを行っている。 大阪狭山市 教員委員会の後援も得ていることもあり、積極的に活動を展開する

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

7-34　学生募集活動は、適正に行われているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
7-34-1　学生募集活動は、適正に行われているか	各科定員充足を目標に、学校活動を紹介する手段（学校案内、募集要項、オープンキャンパス等）を通じ、事実に基づく広報活動を展開する。	学生募集活動の実施例 • 休日・体験型・オンラインオープンキャンパスを併用しながら個別相談会も開催している。 • 職員による高校ガイダンスでの説明の実施、エリアマネージャーによる高校や企業訪問等を行った。	募集原資となる学生数が少子化による影響により、苦戦しているが学校の認知度の向上のため、教育委員会と連携した小中学生への施策や日本語学校、高校訪問等を継続強化していく。	方針書 施策系統図
7-34-2　学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか	出願対象者における、頻度の高い質問や保護者の視点で捉えた不安要素を的確に説明する。	学校案内には就職状況を明示し、募集要項には学納金、奨学金制度等を詳細に記載している。	課題なし	学校案内パンフレット 学校ホームページ カレッジガイド
7-34-3　志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか	外部からの学校相談･入学相談に対し､的確に対応し学園に対する信用と信頼を得る。	ホームページやフリーダイアルで受付し、志望者の問い合わせや相談に対応している。	課題なし	役割分担表
7-34-4　募集定員を満たす募集活動となっているか	Honda グループの全国求人を見据えた募集活動を実施する。	Honda 及び販社様との連携により、販社での体験会や高校訪問を推進し、また地域密着のエリアマネージャーも同様に地場の高校や企業訪問を行なっている。	関連企業との連携による「出張型学校説明会」を増やしながら、現場に即した形で訴求強化を図っていく。	募集活動報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
募集活動の対象である高校生、保護者、就職先企業の立場に立ち、法令順守はもとより、事実に基づいた広報を展開している。特に、遠隔地の販社の求人に応える必要があり、Honda及び販社と協力して学園への理解促進を図っている。学生募集活動及び広報活動においては、年度当初に活動方針、募集施策を打ち出し、その計画の下に予算化され、適正に運営されている。	外部環境の変化等により厳しい募集環境にはあるが、高校生の進路動向を的確に分析し、単年度の学生募集計画及び中長期学生募集計画を立案し安定した学園経営に繋がるように学生募集活動を行っている。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

7-35　学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
7-35-5　学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に、伝えられているか	就職実績、就職先企業情報、卒業生の活躍情報などを、志願者や保護者に対して、複数の媒体で正確かつ適時に伝える。	過去５ヵ年の就職実績企業や国家資格の合格率はホームページで、紹介している。 学校案内にて卒業生の紹介を掲載している。	課題なし	学校案内パンフレット 学校ホームページ
7-35-6　卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか	CS 調査やオープンキャンパス参加者アンケートから学園のブランド力を測り、学園の広報活動に繋げる。	CS 調査や卒業生アンケート調査を実施し、一級自動車研究開発学科（４年制）等の魅力づくりに活かし説明資料に反映している。	課題なし	学校案内パンフレット 学校ホームページ

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
資格取得状況や就職状況は志願者が専門学校を選択する上で、 大変重要な判断材料になる。ホームページ上での公開等による資格取得率や就職率は学園の教育活動の信頼性を高めていると判断するが、その貢献度を数値化することで、より効果的な募集活動とする必要がある。	大学全入時代を迎える中で、国土交通省認定の職業訓練機関である自動車整備専門学校の教育評価を示し、数値化された実績だけでなく、卒業生や教育現場の声などを、より積極的に学校案内パンフレットやホームページで公開し、自動車整備への関心を高める活動を展開する。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

7-36　入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
7-36-7　入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	入学選考規程に基づき、適切かつ公正な入学選考を実施する。	AO入試及び推薦選考・一般選考ともに基準に基づき実施している。 学生募集資格や入学選考方法は要項に明記し公表している。	課題なし	学生募集要項 ホームページ
7-36-8　入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	入学選考基準、出願者数、合格者・不合格者数・辞退者数は明確にする。	毎年度ごとに数値を示すデータを作成し、データベース化している。（推移は正確に把握している） 入試の内容は審査会にて審議している。	課題なし	入試出願状況一覧表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
競合他校の入学選考方法が複雑化する中で、自動車整備士養成校としてのスタンスは変えず、その分野に必要な基礎計算能力と、推薦選考に関しては高校での成績や欠席基準を明確に設けて、厳格に選考している。 また、応募条件も学生募集要項の中で明確に示し、入学希望者が混乱しないように、質問や問合わせへの応対体制を整えている。	学科試験免除のAO入試や推薦試験においても、全員の基礎学力確認し、入学までの期間にフォローを行うことで入学後の導入授業がスムーズに行えるように取り組んでいる。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

7-37　学納金は妥当なものとなっているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
7-37-9　学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか	教育内容や教育経費、 他校情報をもとに設定する。	各科毎に学納金額を決めているが現在の金額で妥当と判断している。 各種補助金は競合他校の状況も考慮して、導入を行なっている。	競合他校の状況を十分に把握しながら適宜、経営検討会で検討していく	学生募集要項
7-37-10　入学辞退者に対する授業料等の返還について適正に処理されているか	入学辞退者に対して､納付済みの授業料を適切に返金する。	入学辞退者について、授業料の返還は適正に処理しており、入学前に授業料を納付済みであれば、全額返金されている。	課題なし	退学者納付金返還規程
7-37-11　学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	学納金に関する情報を正確に記録保管する。	本校創立からの全科の学納金に関する情報を正確に記録保管している。	課題なし	学納金推移一覧表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育内容や他校の状況、教育経費の変動を勘案して学納金額の見直しを行っている。	特になし

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

基準８　財務

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本学園においては、近年新入学生数の減少により在校生数が減少傾向となってきており、財務状況は厳しく、今後一層経営環境が厳しくなる状況にあっては、収支均衡を是とする効率的な学校運営と経営体質強化に取組むことが必要である	特になし 参考資料：主要財務数値、予算書、補正予算書、監査計画書

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	中嶋　歩

8-38　(1/1)

8-38　中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
8-38-1　中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	事業活動収支均衡、自己資金による学校運営をする	収支改善計画の立案を行い、実行している	経費削減を推進 入学者数増加を目指すリバイバルプランを定め募集活動を強化	収支改善計画
8-38-2　主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか	財務システムにより、正確に把握する	過去の財務データ一覧表により、状況分析が可能となっている	課題なし	計算書類 総勘定元帳 予算管理表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
収支改善計画を立案し、施策を実行している また、状況に応じ、新たな経費削減施策も継続検討する	特になし

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	中嶋　歩

8-39　予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
8-39-3　年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか	理事会・評議員会で承認可決された計画案に沿って実行する	計画に沿って実行している	課題なし	予算書、補正予算書
8-39-4　予算は計画に従って妥当に執行されているか	計画に従って妥当に執行する	予算管理システムによる内部統制を行っている	課題なし	予算細目実績表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事会・評議員会で承認を受け、計画案に沿って実行している	特になし

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	中嶋　歩

8-40　財務について会計監査が適正に行われているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
8-40-5　財務について会計監査が適正に行われているか	外部監査人による監査を実施する	公認会計士により、毎年「当年度事務処理状況及び財務諸表各項目」について適正に監査が行われている	課題なし	監査報告書
8-40-6　会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか	責任体制を明確にし、監査を妥当に行う	監査計画による期中、期末監査を実施している	課題なし	監査計画書 監査報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
外部監査人による監査を実施している	特になし

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	中嶋　歩

8-41　財務情報公開の体制整備はできているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
8-41-7　私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか	積極的な財務情報の公開の体制を構築する	ホンダ学園ホームページにて公開している	課題なし	特になし
8-41-8　私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか	法令に基づいた財務情報公開の形式で公開する	ホンダ学園ホームページにて公開している	課題なし	特になし

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
特になし	令和６年度については定時評議員会承認後に公開

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	中嶋　歩

基準９　法令等の遵守

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は、学校教育法第３条及び第１２８条の規定に基づき定められた 「専修学校設置基準」と自動車整備士技能検定規則第６条の１８に定める 自動車整備士養成の第一種養成施設「指定基準」を厳正に遵守し、 適正かつ適切に学校運営を行っている	監督官庁である文部科学省と国土交通省運輸局の厳正な指導の基に、 学校運営が適正になされている

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	海沼　弘樹

9-42　法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
9-42-1　法令や専修学校設置基準等が遵守され適正な運営がなされているか	該当する法令等が遵守され適正な運営を図る	監督官庁（文部科学省と国土交通省運輸局）の許認可を受け、該当する法令等を遵守し、適正に運営している	課題なし	「専修学校設置基準」
9-42-2　法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	本田技研工業㈱の該当する諸規則と、学校法人に関する法令等の啓発活動を実施する	本田技研工業㈱の行動規範を配布すると共に、職員会議等での読み合わせ、啓発用サイネージ映像配信を実施している	課題なし	本田技研工業㈱行動規範

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法令、設置基準や監督官庁の許認可、届出等定められていることが適正に遵守されている	監督官庁である文部科学省と国土交通省運輸局の厳正な指導の基に、学校運営が適正になされている

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	海沼　弘樹

9-43　個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
9-43-3　志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	本田技研工業㈱の該当する諸規則に則り、個人情報保護の対策や啓発活動を実施する	個人情報に対する責任体制を構築し、機密書類管理ゾーンを設定し施錠管理及びアクセス管理を行っている 書類及び電子ファイルにおける個人情報に対してランク付けし毎年棚卸しを実施している	課題なし	ホンダ学園 機密管理委員会／個人情報管理体制表
9-43-4　個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	本田技研工業㈱の該当する諸規則に則り、個人情報保護の対策や啓発活動を実施する	新規教職員の受入れ時に、個人情報取扱い者教育を実施している GCP（グローバル・コンフィデンシャリティ・ポリシー）の冊子を共有しDBにおいて常に閲覧できるようにしている	課題なし	個人情報取扱い教育受講者名簿

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報管理責任者を指定し、責任体制を明確化している	機密書類管理ゾーンを設け、出入りできる範囲を制限し、機密の徹底を図っている

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	海沼　弘樹

9-44　自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
9-44-5　自己点検・自己評価を定期的に実施し、問題点の改善に努めているか	自己点検･自己評価の結果、諸問題に対して早期の改善を図る	自己点検･自己評価報告書を用い毎年　確認・報告することにより問題点に早期に対応し改善している。特に募集活動の改善により入学者の増加を得た。	課題なし	自己点検自己評価報告書
9-44-6　自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか	自己点検･自己評価の外部委員による評価体制を確立する	自己点検･自己評価報告書を用い自己点検・自己評価を行い、学校関係者評価委員会にて第三者委員による検証を受けている	課題なし	自己点検自己評価報告書
9-44-7　自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	全教職員に周知する	学校関係者評価委員会の指摘や自己点検･自己評価報告書を HP に開示し、全教職員が閲覧できるようにしている	課題なし	自己点検自己評価報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己点検･自己評価表を学校運営における効果的なツールとして定着を図り、問題点の発見と改善につなげている。特に重要課題としている学生募集においては、教職員全員の協力体制を確立し、入学者の増加に繋げた。	特になし

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	海沼　弘樹

9-45　自己点検・自己評価結果を公開しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
9-45-8　自己点検・自己評価結果を公開しているか	ホームページにて公開する	ホンダ学園ホームページにて公開している	課題なし	ホンダ学園ホームページ内情報公開欄
9-45-9　自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか	自己点検・自己評価結果の公開に関する方針を規程として整備する	自己点検･自己評価の実施と公開を学則細則及び学校関係者評価委員会に関する規程に方針を規定している	課題なし	学則の細則 学校関係者評価委員会に関する規程
9-45-10　自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	学校関係者評価委員及び教職員に対して公開する方針を正確に伝える	学校関係者評価委員会及び方針説明会にて、公開する方針を説明し同意を得ている	課題なし	特になし

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己点検・自己評価結果の公開方針を規定した規程に則り、ホームページにて公開をした	特になし

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	海沼　弘樹

基準１０　社会貢献

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
当校は、「社会貢献の心と行動力を育む」を育成方針に掲げており、 この実現に向けて、学校としての実践と学生による実践を目指して 活動している。 地域社会の一員として、大阪狭山市とその関連団体を中心にホンダ学園としての取り組みを実践している。 また、環境貢献として、学校敷地内に太陽光発電システムを設置し再生可能エネルギーを利用することで二酸化炭素低減活動を実践している。 学生の取組みでは、地域社会への定期的なボランティア活動への参画により、育成方針の実践に向けて取り組んでいる。	【環境に対する取り組み】 • ２００８年１０月に開始した２１種類のゴミの分別活動を継続中。 • ２０１１年４月 新校舎（４号館）に出力 40KWH の太陽光発電装置を設置し、更なる環境への取り組みを強化。 • ２０１３年３月～２０１５年８月に照明器具の LED 化を実施。 • ２０２０年３月に照明器具の LED 化を追加実施。水銀外灯の LED 化を実施。 • ６月～１０月クールビズ活動を実施。 • 空調の温度コントロールによる省エネ対策の実施。 【社会貢献事業に対する取り組み】 学校近隣・地域の清掃を定期的に実施。 日本赤十字社 献血活動への協力（２回/年）

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

10-46　学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
10-46-1　広く教育機関企業・団体、及び地域との連携・交流を図っているか	地元の小中高校及び企業・団体からの要請に協力するとともに、各種イベントを活用し交流の場を創出する。	高校生、中学生の進路授業の受入れを行っている。 学園祭は地域住民へ開放。 また、地域クラブの訪問を受入れ、施設や新型車両見学も含め教育活動への理解促進を図っている。	課題なし	
10-46-2　学校の資源を活用し、生涯学習事業や雇用促進への支援を行っているか	公的機関が行う生涯学習事業には全面協力する。	小学・中学・高校に出張授業を展開。2024年3月に大阪狭山市と包括連携協定を締結し、更に連携を強化	課題なし	
10-46-3　学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか	地元の企業・団体からの施設貸し出し要請は、積極的に受け入れる。	大阪府自動車整備振興会の整備士試験会場として、また、警備会社の研修会場、販社（地事企主催）の既納客への新車内覧会のため、学校施設を提供している。 販売会社及び本田技研の技術コンテスト等で校舎及び教材を提供している。	課題なし	
10-46-4　諸外国の学校などと連携し、留学生の相互の受け入れ、共同研究・開発を行っているか	社会の国際化に対応し、留学生の受け入れを促進し、将来的には相互の受け入れを目指した環境整備を行う。	積極的に留学生を受入れ、社会に輩出している。就職先企業からの問い合わせが増えてきており、企業における認知度も高まってきている。	日本語学校に対して積極的なガイダンスを行い募集活動の強化をしていく。	

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
10-46-5　重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓発活動を行っているか	交通四悪、喫煙対策、ドラッグ問題、いじめ問題、環境問題等について学生及び教職員への啓発活動で問題意識を高める。	長期連休前の私の決意活動を実施。各オリエンテーションでは喫煙、ドラッグ問題、いじめ問題への注意喚起実施。 禁煙プロジェクトにより2023年度から学校施設内は完全禁煙としている	課題なし	ホームページ
10-46-6　学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか	交通四悪撲滅を主要対象として啓発活動を行う。	鈴鹿交通教育センターの校外授業（交通安全オリエンテーション）を中心に、安全運転の知識と技術を学ぶ。 学園周辺での交通安全立哨等、登下校時の意識付けを図っている。	交通四悪による重大交通事故のゼロ化を目標にしているが、重大事故以外の違反等が減少しない傾向にあるため、日常の指導も含めて学生との関わりを強化していく。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
環境問題に積極的に取り組んでおり、今後も啓発活動を積極的に実施し更なる定着を図る。 本学園の教職員と学生において、自動車業界に就く者として交通事故、違反に対する高い意識が必要である。将来は、啓発・指導する立場となることを自覚させるために多くの施策を行っている。	自動車業界において、期待に応え、活躍する人材を輩出するためには、環境意識のレベルアップが必須である。授業にはEV車両を導入、また部活動ではエコラン車輛の開発等、日頃から意識を高める機会を提供している。

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹

10-47　学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
10-47-7　学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	学校として、学生にボランティア活動への情報提供を行うと共に、ボランティア活動を支援する。	学校近隣、地域の清掃活動を実施 狭山池公園花火大会運営サポート、ビーチクリーン活動への参加等 年２回の献血、新たに骨髄バンクドナー登録活動も追加展開	課題なし	ホームページ
10-47-8　学生のボランティア活動の状況を把握しているか	人助けやボランティア活動実績の報告を促し、褒めることで、更なる活動意欲を醸成する。	学生の善行表彰制度を拡充し、新たな参加者の獲得と学校全体の雰囲気作りを推進している。	課題なし	ホームページ

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
ボランティア活動として、 学生及び職員が定期的に地域清掃活動や献血活動を行っている、 「自発的なボランティア活動が新しい人との出会いと理解を生み、自らの人生をより豊かにすること」の啓発活動を継続し、更に多くの参加者を獲得していく。	特になし

最終更新日付	令和７年５月１日	記載責任者	田中 直樹